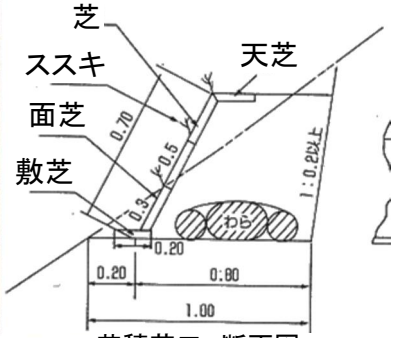
田上山山腹工　＜滋賀県瀬田川＞

【所在地】滋賀県大津市
【築造年】1878年～（明治11年～）
【工　種】積苗工など
【特　徴】淀川上流域の田上山をはじめとする山地は、千数百年以前には一大美林でしたが、宮殿の造営や社寺仏閣の建立のため多量の木が伐採され、荒廃しました。

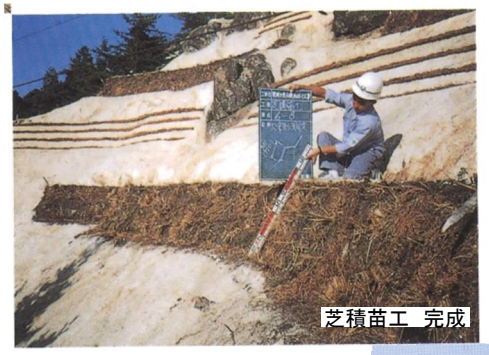
明治時代に入ると、淀川の舟運阻害を解決するため、政府が招聘したオランダ人技術者デ・レーケは、砂防工事を励行するとともに、厳重に淀川流域の諸山における濫伐などを取り締まるべき必要性を説いています。

当該地域は岩盤の露出が多く、急峻で樹木の生育には不利ですが、山腹工の施工により、緑が復元していることが分かります。

のり切り工完了　すじ付け中



芝積苗工　断面図


芝積苗工　完成

明治41年撮影　天神川流域の変遷（田上地区）

昭和45年撮影

平成10年撮影